

第10回道南地域第三セクター鉄道開業準備協議会議事録

日時：平成28年2月5日（金）13:00～13:50

場所：渡島総合振興局 3階 講堂

【北海道交通企画監】

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして感謝申し上げます。司会進行をさせていただく北海道交通企画監の渡邊です。ただ今から、「第10回道南地域（五稜郭・木古内間）第三セクター鉄道開業準備協議会」を開催いたします。開会にあたりまして、荒川副知事からご挨拶申し上げます。

【北海道副知事】

本日は、皆さんお忙しい中ではございますが、「第10回道南地域（五稜郭・木古内間）第三セクター鉄道開業準備協議会」にご出席いただき、ありがとうございます。

北海道新幹線と同時に開業する道南いさりび鉄道の開業まで、あと節目の50日となりました。

本日、ご出席いただいている道南いさりび鉄道の小上社長をはじめ、皆様におかれましては、開業に向けた具体的な準備を着々と進めていただいております。これまでは、書面の準備などでしたが、これからの運行開始に向けたさらなるご尽力をお願いします。

一方、沿線市町におかれてまは、官民一体でいさりび鉄道を盛り上げる「道南いさりび鉄道地域応援隊」を設立していただきましたが、今後も地域主導による利用促進に向けた取組について、引き続きよろしくをお願いします。

道としても、後ほどお話をさせていただく地域情報発信列車の整備という形で支援をさせていただいておりますが、今後とも地域と一体となって会社を支えてまいりたいと思っております。

さて、本日の協議会では、次第にあるとおり、開業に向けた準備状況、開業日当日の動き、利用促進の3点についてご説明をさせていただきます。

開業も間近に迫っております。これからどうぞよろしくをお願いします。

【北海道交通企画監】

それでは、次第に沿って進行していきますので、よろしくをお願いします。

最初に、議題（1）道南いさりび鉄道の開業に向けた準備状況について、事務局から説明してください。

【北海道交通企画課長】

それでは「道南いさりび鉄道の開業に向けた準備状況」を説明します。資料1をご覧ください。

まず、1ページ目の「1 社内体制」ですが、道南いさりび鉄道では、昨年6月の鉄道事業許可取得後、8月に本社を函館市に移転し、開業準備を本格化したところであり、現在22名の社員は、今後、開業時までには70名程度となる見込みです。

続いて、「2 運行概要」ですが、現行のJR江差線の普通列車の運転本数を基本に平日・土曜・休日ともに上下37本の運転を予定しています。運賃等は、経営計画に基づき、現行のJR運賃と比較して、概ね1.3倍程度とするとともに、JR函館駅といさりび鉄道の各駅からの乗継運賃については、JR北海道の協力のもと、双方で乗継割引を実施し、現行と比較して1.5倍以内としたところです。

なお、運賃や利用方法については、先月26日から今月2日までの間、沿線市町6箇所で開催されました。

続いて、「3 JR北海道との基本合意の履行状況」ですが、「（1）基本合意」のとおり、並行在来線に対する協力内容に関する基本合意、並行在来線における安全運行体制の構築に関する基本合意2本の計3本の基本合意を道とJR北海道の間で3本の基本合意を締結しております。

2ページ目をご覧ください。「（2）履行状況（概要）」として、主要事項をまとめたものです。

まず、「①鉄道資産の譲渡」については、当初予定していた16億円程度で、道南いさりび鉄

道が J R 北海道の鉄道資産を購入する予定であり、現在、契約締結に向けた手続きを進めております。

次に、「②譲渡資産の保全、施設等の改修・整備」ですが、現在も J R 北海道において、必要な検査と修繕を実施していただいているところであり、道南いさりび鉄道に対しては、補修履歴や検査結果、修繕計画などといった必要な記録が提出されています。

また、道南いさりび鉄道では、外部有識者で構成する「安全管理アドバイザー会議」の助言を受けて、J R 北海道の譲渡資産に対する修繕の要望書を提出していましたが、こちらについても、J R 北海道より、要望内容の修繕を実施するとの回答を得ているところです。

なお、J R 北海道による修繕、整備内容の概要については、別途「参考資料 1」を添付しているので、後ほどご覧いただきたいと思っております。

次に、「③運輸安全委員会が公表した事故調査結果への対応」ですが、J R 北海道からは、脱線箇所における脱線防止ガードの設置、類似曲線における設定カントの低減、レールの歪みや左右レールの高さなどの複合変位の管理強化といった対策を進めている旨の報告を受けております。

また、J R 貨物からも道南いさりび鉄道に対し、安全管理アドバイザー会議の場において、江差線における脱線対策が進められていることの説明が行われております。運輸安全委員会が公表した事故調査結果の概要のほか、J R 北海道、J R 貨物による対策の詳細については、別途「参考資料 2」を添付しているので、後ほどご覧いただきたいと思っております。

最後に「4 安全運行体制の確保に向けた方針」ですが、本協議会が平成 26 年 7 月に策定した「並行在来線の安全運行体制の確保に向けた方針」に基づき、道南いさりび鉄道では、安全管理アドバイザー会議による有識者等の意見を踏まえながら、会社の安全方針を決定し、自社の安全管理規程などの策定が行われているところです。

【北海道交通企画監】

ただ今ご説明した内容につきまして、ご質問、ご意見等があれば、ご発言をお願いします。

(なしとの発言あり)

【北海道交通企画監】

開業までいよいよ 2 か月を切りました。道南いさりび鉄道には、北海道新幹線との同時開業に向け準備を進めていただくことになると思っております。

また、J R 北海道には、引き続き、経営分離区間の必要な検査と修繕の確実な実施していただき、万全な安全運行体制の構築した上で、道南いさりび鉄道に対し、鉄道資産を引き継いでいただけるよう道からも働きかけいく考えでございます。

続いて、議題（2）開業日の動きについて、事務局から説明してください。

【北海道交通企画課長】

それでは「開業日の動き」について説明します。資料 2 をご覧ください。

はじめに、開業前日の 3 月 25 日ですが、函館市内において「開業前夜祭」を開催することとしており、プロジェクションマッピングの点灯式や音楽ライブといった内容を予定しております。

次に、開業日の 3 月 26 日の行事ですが、まず、新函館北斗駅及び木古内駅において、J R 北海道の主催により、朝 6 時台に「新幹線一番列車出発式」が予定されており、その後、7 時台から 10 時台にかけての東京方面等からの新幹線の到着に合わせまして、知事、沿線の市長、町長などによる記念品の配付、郷土芸能などのアトラクションといった到着列車歓迎セレモニーを行う予定です。

11 時台後半ですが、ここからが、道南いさりび鉄道の関連行事となっていきますが、函館駅において、J R 北海道及び道南いさりび鉄道の主催により、函館ライナーと道南いさりび鉄道の出発式を同一ホームで合同開催するとともに、12 時 30 分からは、函館国際ホテルにおきまして、新幹線・道南いさりび鉄道開業記念祝賀会を予定しております。

なお、15 時からは、函館駅上空において、航空自衛隊による「ブルーインパルス展示飛行」

が予定されています。

【北海道交通企画監】

ただ今ご説明した内容につきまして、ご質問、ご意見等があれば、ご発言をお願いします。

【木古内町長】

時刻が決まっているので、それに我々が合わせるということで良いですね。各自治体が人のやり繰りをしていくということですね。

【北海道交通企画課長】

今回は、新函館北斗駅、函館駅、木古内駅、函館国際ホテルの4箇所に分かれてイベントが開催されます。各自治体におかれましても、出席者のご配慮をお願いします。

【木古内町長】

木古内は他の3箇所と違って、ちょっと距離があるものですから。この4箇所を巡るルートをしっかり確認しなければならないと考えております。

【北海道副知事】

道としても、特別職を各地に配置して対応したいと思います。

【北海道交通企画監】

3月26日は、新幹線開業のイベントもたくさん開催されます。大変お忙しいとは思いますが、道南いさりび鉄道にとっても記念すべき開業であることから、出発式、記念祝賀会へご参加をよろしくお願いいたします。

続いて、議題(3)道南いさりび鉄道の利用促進等について、事務局から説明してください。

【北海道交通企画課長】

それでは「道南いさりび鉄道の利用促進」について、私から3点ほど説明します。初めに、資料3の道南いさりび鉄道地域応援隊の設立についてという資料をご覧ください。

道南いさりび鉄道地域応援隊は、沿線地域における官民が一丸となって、利用促進に向けた具体的行動を行うことを目的に設立しました。資料には、小上社長を中心とした隊員の皆様の写真を掲載しております。沿線の函館市、北斗市、木古内町から5名ずつ、計15名の推薦をいただきまして、昨年11月に設立した団体であり、構成メンバーについては、3ページ目に載せております。

次に、2ページ目をご覧ください。今年度の活動ですが、先月28日、29日に、応援隊のアドバイザーをお願いしている日本旅行様にもご同席いただき、各市町でワークショップを開催し、開業記念行事の実施内容や平成28年度における各市町の活動内容を話し合ったところです。今後、3月26日の開業日当日の記念行事の具体的な内容について、さらに検討を進める予定とのことです。

続いて、資料4「企画切符や旅行商品の販売等について」をご覧ください。北海道新幹線開業にあわせて、道南を訪れる観光客に地域を周遊していただくため、各事業者が色々な切符を販売する予定です。

1ページ目にある「1 はこだて旅するパスポート」は、JR北海道の函館支社管内で販売している道南のフリーエリア内で、普通列車、バス、函館市電が2日間乗り降り自由となるフリー切符ですが、3月26日の開業日以降は、対象エリアに道南いさりび鉄道の運行区間が追加となる予定です。

また、「2 江差・松前周遊フリーパス～千年北海道手形～」は、函館バスが販売している木古内町から道内8町エリアを周遊する路線バス、定期観光バスが乗り放題となるフリー切符ですが、道南いさりび鉄道では、このフリーパスの購入者に対し、道南いさりび鉄道の割引切符を販売を検討しております。

2 ページ目をご覧ください。「3 青春18きっぷ」はJR6社で販売しておりますが、昨年12月にJR北海道から、青春18きっぷ北海道オプション券を購入することで、奥津軽いまべつ～木古内間の新幹線のほか、道南いさりび鉄道の運行区間である木古内～五稜郭間の乗車が可能になるとの発表がありました。

「4 その他」としては、民間事業者においても道南いさりび鉄道の乗車をテーマとした旅行商品のほか、旅行サイト等での道南いさりび鉄道の旅を紹介するページが作られるなど、道南いさりび鉄道についても、開業気運の盛り上がりを見せております。

利用促進の説明の最後に、資料5「いさりび観光列車ながまれ号」の運行についてをご覧ください。

道では、道南地域の食や観光、文化といった地域の魅力を広く発信するための車両の整備を目的に、道南いさりび鉄道に対し、補助金を措置したところです。車両は、保有車両9両のうち2両を活用し、通常の運行に加えて、観光利用に使用できる車両を整備するというものです。

運行概要の詳細については、本日は、この協議会に出席していただいている道南いさりび鉄道の小上社長に後ほど予定されている車両デザインの発表とともにご説明いただく予定です。

また、運営体制については、営業、集客力強化の観点から、観光列車の商品販売や社内サービスの提供を道南いさりび鉄道から受託する(株)日本旅行の瀬端マネージャーにお越し頂いているので、商品の企画内容等をご説明いただきたいと思いますと思っております。

【北海道交通企画監】

それでは、道南いさりび鉄道からのご説明をよろしく申し上げます。

【道南いさりび鉄道】

道南いさりび鉄道の小上でございます。やっと、皆様に待望の地域情報発信列車、観光列車のデザインを発表できる日を迎えました。この間、ここにご参集の皆様には、色々なお立場から応援をいただきまして、この場を借りてお礼申し上げます。

今回のデザイン決定に当たりましては、地産地消をテーマとしました。地元のデザイン協議会を中心に、これまで熱い議論を交わしながら、苦労に苦労を重ねて今日に至りました。

このデザインにつきましては、弊社全員の熱い思い、そして補助金を拠出していただきました高橋知事、前社長の荒川副知事の熱い思いも込められております。

この列車は3月26日より、道南いさりび鉄道線を走ります。利用者の方々の大きな大きな夢とロマンを乗せて走り続けます。弊社としても、地域に愛される鉄道を目指して全力で走り続けますので、どうか今後も一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。まずはデザイン発表前のご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

(車両デザイン披露)

【道南いさりび鉄道(株)】

道南いさりび鉄道運輸課の敷村と申します。今回の観光列車のデザインについて説明させていただきます。

今回の観光列車については、道から話があった後、テーマをどのように進めていくのか、社内でも色々な議論がありました。ロゴマークの時から、徹底的に「物」も「作る人」も全て地域にこだわっていきたいと思い、先ほど小上から話があったように地産地消をテーマとしました。

この観光列車は、「ながまれ号」と名付けました。これは地域の方言なのですが、今となってはあまり広く使われていない方言とのこと。この「ながまれ」は「ゆっくしていけや」、「のんびりしていけや」という意味で、とても人間味のある暖かい方言だと思っております。

私達はこれから木古内と函館を結ぶ鉄道を作るわけですが、観光でお越しいただく方も、それから地域の皆さんも、我々社員としては、こういう気持ちでサービスを提供していきたいという思いでこの名前としました。

今回の車両デザインは、今お話したように地元の人達と一緒にやろうということで、本日は地域を代表し、建築士の高田さんをお招きしております。今回の意匠を担当しております。

次にデザインコンセプトですが、大きく分けて2つあります。1つ目は我々の列車が新幹線と違うことは何だろう考えた時、我々の線区は木古内を出て、ずっと海沿いを走って函館を目指して参ります。その沿線には、とても美しい津軽海峡と函館山を望む景色が広がっています。

(沿線動画の紹介)

これは木古内側から函館を映したものですが、このように、車窓には右手に大きく津軽海峡を望み、遥か遠くには函館山を望むという素晴らしい景色が広がっています。これを新幹線と比べて1/3のスピードでゆっくりご覧いただきながら、「ながまっていただく」ことをイメージし、車両ラインのアクセントとして、函館山のラインを配しています。映像で見える左側の緑部分は道南杉ですが、今、内装用のテーブルにも道南杉を使う準備を進めています。

もう一つのコンセプトは、我々の会社はいさりび鉄道という社名なので、津軽海峡に浮かぶ美しい漁り火と、宵の空がだんだん更けていき夜空に星が広がるようなイメージのデザインとしました。内装は先ほどもお話したとおり、通常の運用に加えて、時々観光列車として使うということなので、脱着可能なテーブルをつける予定であり、それが道南杉のテーブルとなります。

最後にこのデザインプロジェクトですが、会社名、ロゴ、車両デザインのほか、今後の制服デザインなどについても、地産地消のデザインとする予定です。地域密着を形にするための一つの考え方であり、函館在住のデザイナーの皆さん、それから地元の大学の方に色々なご意見を伺いながら、こういう形を作ってきました。これから、様々な鉄道事業におけるデザインワークがありますけれども、そういったところにもこの考え方で展開していきながら、魅力あるデザインでお客様をもてなしていきたいと思っております。

【(株)日本旅行】

日本旅行の瀬端と申します。私共、日本旅行といたしましては、道南いさりび鉄道様の「ながまれ号」を利用した観光列車の企画、募集といった催行に関する一連のサービスを受託させていただきましたので、本日はその発表をさせていただきます。

このようなブルーを基調としたカラーは私のような鉄道好きはブルートレインを連想させる素晴らしいデザインであり、この落ち着いた車両にどのようなサービスを提供するのかを沿線自治体の皆様、応援隊の皆様との連携を高め、いさりび鉄道様と協力し、素晴らしいサービスができるようこれから準備を進めていきます。

本日配付させていただきました私共のプレスリリースに記載させていただきましたが、仮称ではありますが、「道南いさりび食堂ながまれ号」ということで、通常の運行とは別に特別な観光列車として走らせる時はこの名称で運行し、お客様に道南の素晴らしい素材をベースにした食事を楽しんでいただきたいと思っております。商品コンセプトとしては、道南いさりび鉄道沿線、そして道南地域の魅力を味わえる列車とし、そして落ち着いた車内に合わせた懐かしい昭和モダンな鉄道の旅にしたいと考えております。

また、いさりび鉄道様からのお話にもありましたが、何より地元の方が重要だと考えております。沿線らしさを前面に手づくりのおもてなしを皆様のご協力のもと、函館、木古内以外の駅にも停車しまして、地元の方とのふれあいといったサービスも検討していきたいと思っております。

運行は今のところ5月下旬から10月までの週末に年間12本を設定する予定で検討を進めています。行程については、函館を16時台に出発し、木古内の道の駅などで滞在時間を取り、函館には20時頃到着してから函館山の観光に行ける時間帯をイメージしております。また、季節による影響はありますが、帰りの列車からは漁り火が見えるような行程をイメージしております。

商品の発表については、今のところ調整中の要素もありますので、3月中旬頃から私共日本旅行全国の支店及び直営代理店で販売させていただく予定です。その他、料金やサービスの詳細はあらためて発表させていただきますので、よろしくお願いたします。

【北海道交通企画監】

道南いさりび鉄道様、日本旅行様、ありがとうございます。ただ今ご説明した内容につきまして、ご質問、ご意見のほか、ご感想でも構いませんので、何かありましたらご発言をお願いし

ます。

【北斗市副市長】

もともとは並行在来線を守るというところからスタートしましたが、観光の面も含めまして、地域をあげて、地域の皆さんとともに鉄道を守りながら観光でいらっしゃる方をもてなしたいと考えております。

【北海道交通企画監】

続いて、議題（４）三セク開業準備協議会の今後について、事務局から説明してください。

【北海道交通企画課長】

資料6をご覧ください。まず、これまでの経過ですが、平成17年4月に現在の三セク開業準備協議会の前進である北海道道南地域並行在来線対策協議会を開催し、その後、平成24年5月には、現在の三セク開業準備協議会となって、本日までに10回の協議会を開催しました。

次に「2 三セク開業準備協議会の今後」についてですが、平成26年7月に決定した経営計画に基づきまして、仮称ではありますが、道南地域（五稜郭・木古内間）第三セクター鉄道経営検討会議を開業日付けで組織する予定でございます。

年度内の設立に向け、後日書面にて協議をさせていただきますので、よろしく申し上げます。

【北海道交通企画監】

ただ今ご説明した内容につきまして、ご質問、ご意見等があれば、ご発言をお願いします。

【木古内町長】

会の名前がいつも長いんですね。名称は第三セクター鉄道ではなく、三セク鉄道の略称でも良いのではないのでしょうか。やはり、正しい名前をつけておくのが大事なのですか。

【北海道交通企画監】

原則としてそういうことになろうかと思いますが、事務局で何か説明があればお願いします。

【北海道交通企画課長】

原則はそうですが、大変長い名前でもあります。現在の名称は仮称でありますので、正式にはまたご相談させていただきます。

【北海道交通企画監】

他にはございませんか。

【木古内町長】

名称が準備から経営検討に変わることであります。この名称に相応しい活動をしていかなければならないと思います。そうなりますと、今のような構成メンバーで本当に良いのか、もっと経営に踏み込んでいく必要があるのではと考えますが、その点はいかがでしょう。

【北海道交通企画課長】

基本的には開業準備会を改組して、経営検討会議を設立するということから、メンバーについては、会議の構成員の中で検討し、決めていくことが可能かと思っております。そこも含めてご相談させていただきたいと思っております。

【北海道交通企画監】

それでは、名称とメンバーは引き続きご相談いたします。予定の議事は以上となりますが、他に出席の皆様方のご発言や全体を通じて何かご意見等があれば、お願いします。

【木古内町長】

現在の道南いさりび鉄道の事業内容の中で、鉄路を使った収益事業は観光列車を含めて少し理解をしているのですが、その他の収益事業はいかがでしょうか。レールを使う事業はお客様に乗っていただけてお金になります、グッズの販売は乗らなくても売ることができますので収入源となります。様々な私鉄を見ますとグッズの販売などを行っていますが、今、いさりび鉄道が取り組んでいるグッズなど、本来の営業収益以外の増収策はどのあたりまで進んでいるのかお知らせいただきたいと思います。

【道南いさりび鉄道(株)社長】

今、グッズや記念乗車券など、デザイン的なものを含めて各提携企業と準備を進めております。まだ発表できる段階ではありませんが、報告出来る時点で弊社の取締役会などの場でお示しいたと思いますので、もうしばらくお待ちください。

【木古内町長】

事業が進んでいるということで安心しました。問題は時期なのですが、のんびりしていると新幹線といさりび鉄道が開業してしまいます。これは早いうちにやることに意味がありますので、開業前に1日でも早く出せるものは出していく、全部揃ってから出そうと思うと遅れますから。売れる時に売っていくということをお願いしたいと思います。

【北海道副知事】

皆さんご承知のとおり、経営計画上は当初より赤字が見込まれています。厳しい経営環境下でのスタートとなりますが、それでも本日は夢の持てるデザインの観光列車も発表になりましたし、また、今も増収策について検討しているとのお話がありました。

いずれにしても、乗っていただくことが大前提であります。今日、応援隊の話もありましたが、これからはいよいよ沿線市町と道が一体となって利用促進を進めていかなければなりません。引き続きよろしく申し上げます。

【北海道交通企画監】

それでは以上をもちまして、本日の協議会を終了します。